



国営ひたち海浜公園
PRESS RELEASE

～季節の花便り～

砂丘の女王「スカシユリ」について

謹啓

盛夏の候 皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、砂丘の女王と呼ばれる「スカシユリ」が園内各所で咲き始めました。

スカシユリの名の由来は、花卉の下方が細くなって、各弁の間に隙間ができることからです。スカシユリは梅雨時に上を向いて開花し、雨はこの隙間から落ちるため、機能的な花形でもあるのです。

スカシユリは、かつては砂浜に群生していましたが、現在では開発や盗掘などにより数が激減しています。公園では、残った株を大切に保護すると共に、公園内の圃場で育てた球根を砂丘ガーデンなどに植えています。

白い砂丘に鮮やかなオレンジ色の花を咲かせる花姿は、可憐でいて力強く、遠くから見ても非常に良く目立ちます。

つきましては、皆様には御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願い申し上げます。

謹言



撮影：平成18年7月4日

お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4
ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・小池
電話 (029) 265-9005 FAX (029) 265-9339

お客様問い合わせ番号 (029) 265-9001

ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp>

「スカシユリ」について



スカシユリ: *Lilium maculatum*
(ユリ科 ユリ属)

海岸の砂地に生える多年草で、6～8月に、大きなオレンジ色の花を咲かせます。夏の砂丘を彩る植物です。現在、ところどころで咲き始めており、8月上旬までご覧いただくことができます。

スカシユリの名の由来は、花弁の下方が細くなって、各弁の間に隙間ができることからです。

スカシユリは梅雨時に上を向いて開花するため、雨はこの隙間から落ちるので、機能的な花形でもあるのです。

スカシユリの鱗茎(地下茎の周りの葉が肉厚で球状になったもの。いわゆる“百合根”)は砂中に深く埋もれ、屈折した茎が地上まで立ち上がります。

屈折した地中の茎の途中に木子(小さな球根)を着けますが、これが公園に生息するキジの格好の餌となってしまうています。また、若い個体も地中浅いところにあるため、キジの食害を受けています。

増殖するには、木子を取って大きく育てていくのが最も効果的です。種子を発芽させて育てていくことも可能ですが、開花するまでに3年以上の歳月を要します。

また、スカシユリはウイルスに非常に弱いため、植栽する場合は土壌を使用せず砂を用いることがポイントです。



【海浜植物の群落復元をめざして】

ひたち海浜公園の砂丘には、かつて海浜の自然植生が良好な状態で保たれ、季節によってはハマヒルガオやハマエンドウ、スカシユリなど多様な海浜植物が咲き乱れる美しい植物景観が展開していました。

このように海浜植物が豊富に生育する美しい植物景観を見ることができた砂丘は、全国的にもほとんどありません。ところが近年、さまざまな人為的影響によって、海浜植物の生育に不可欠な砂の供給と移動が減少し、また、帰化植物や雑草が侵入して生育範囲を拡大させているため、海浜植物が脅かされています。

砂丘ガーデンでは、かつての自然植生を取り戻すため、海浜植物の群落復元をめざして、保護増殖活動に積極的に取り組んでいます。昨年は、ボランティアや公園職員により、約6千個の木子を植え付けました。これらが順調に育ち、何年か後に海浜公園の夏の砂丘をオレンジ色に染めてほしいと期待しています。